

『砂糖座日記』解題

—— 山下久四郎氏旧蔵写本 ——

*名嘉正八郎

『砂糖座日記』は、琉球国時代の砂糖座の記録抄である。大正十三年（一九二四）三月、沖縄県立沖縄図書館発行の『琉球史料目録』に『砂糖座日記』と『砂糖座旧記』が掲載されており、いずれも貴重な記録抄である。

さられた。したがって『砂糖座日記』の写は、現在沖縄県立図書館の山下文庫に収蔵されている。

山下久四郎氏は『砂糖座日記』写の最初に、つぎのように記されている。

ところが今次大戦において唯一の国内戦を与儀なくされた沖縄県は、沖縄県立沖縄図書館に収蔵されていたぼう大な史料が鳥有に帰し、県庁はじめ市町村、旧家に收藏されていた貴重な史料も同じく灰になった。

大切な多くの史料を失ったのであるが、その写がないわけではない。ここに掲載した『砂糖座日記』も、戦前に写された史料の一つである。

「この『砂糖座日記』は、余が沖縄県嘱託の時代、現地糖業視察に際して県庁糖業史料中より発見してこれを複写したるものなり、今日沖縄に於ては、焼失して現本なし。これをして永遠の資料とすべし」。

氏は、『砂糖座旧記』にも同じ内容を記され複写本二冊づつ所有されておられ、それを元琉球政府糖業課長沢嶽安永氏が一九五六年山下氏宅を訪ねられたとき各一冊贈られた。「琉球国」時代の砂糖座の記録は、仲吉朝助氏が沖縄県庁在職中に収集した地方経済史料の中にもかなり収録されており、一部重複すると思われる箇所もある。しかしこの記録の

特徴について、次のことがいえる。

仲原善忠氏が発見された『琉球館文書』は、一七五一年から一八一三年までの記録で「琉球国」鹿児島出張所の記録抄である。この出張所に対応する国元の役所が砂糖座である。ここにいう『砂糖座日記』は、『琉球館文書』につづく、一八一三年（酉）から四カ年間の記録である。砂糖座の記録は、一六五四年儀間真常の孫真時が臨時の（？）砂糖座奉行に任せられて以来、当然保存されていたと思われる。したがって『砂糖座日記』に収録された記録は、砂糖座の記録抄であろう。そして砂糖座で『砂糖座日記』として一冊に綴られているところをみると、何か目的がある、記録抄をわざわざ『砂糖座日記』としたのではなかろうか。

このころ日記というものは記録のことである。『砂糖座日記』一八一三年四月十九日の「覚」に、その年の薩摩藩から派遣された七名の船主と船頭名が記され、砂糖を「琉球国」の砂糖座から鹿児島出張所の琉球館へ運送した。しかし欠斤が多く迷惑した。今後は、横目、帳主取、同筆者らの立ち会いで斤数をはかり、砂糖座で封印して船頭たちへ渡すことになったといふ。この記録は商品として鎖国のころもつとも価値のあつた砂糖を、薩摩船頭たちに狙われ、荷抜きされることがしばしばであった。それを防ぐ手段を記録したものであろう。また砂糖座を通さない黒糖の密売に関する再度の厳重な取締りを指令したり、砂糖座のクリ板を念を入れて作るようにと国頭地方の九ヵ間切へ指令した「覚」など、だんだん厳しい注文の内容が多くなった。それは旧記になると、もっと厳しくなる。『砂糖座旧記』は、一八三九年（亥年）から一八四二年

（寅年）までの四カ年間の記録である。この頃は、調所笑左衛門広郷が

薩摩藩主のたっての要望に応え、財政改革の主役として全権を委任され、改革断行が成果をあげつつあった時期で、必然的に琉球館へ送る一五〇万斤の届砂糖は、時代を反映して、より厳重にチェックされるようになるが、琉球館から国元への文書や、それに伴う各間切への指令の覚書、あるいは砂糖鍋や日用品など、砂糖座の記録が収集されている。この

『砂糖座日記』は、薩摩側に対応した江戸後期の特産品黒糖をめぐる砂糖座の記録であり、『砂糖座旧記』、『近世地方経済史料』九・十巻や、『阿久根の古文書』とともに沖縄糖業史研究に欠くことのできない貴重な記録である。なお山下文庫については一九七六年度『沖縄県立図書館要覧』（沖縄県立図書館発行）の「付録3」を併読下さるようお願いしたい。

（なかしょはぢろう）

沖縄県立博物館副館長

砂糖庄回記

1.1.16

正月	年
二月	年
三月	年
四月	年
五月	年

正月	年
二月	年
三月	年
四月	年
五月	年

物奉行	右之通事月日上納被御付亥間各引体
	ヲ以錢御藏江相納莫様可被申渡亥尤代
	合之砌無傳失可被次度亥以上
西二月	御物奉行
	諸座諸御藏
御附帶物年追二体	諸奉行諸役人諸奉
行格之役御奉公人	故嘗餘飯米被取
下差儀一席被召苗	在外江差越亥時八
式日以上主經御足之通被成下差此段可	
申渡旨御指圖	
附加勢筆者之儀ニ辛文同御被召苗尤	

12 繼後編

但右同危行危吉強	一同危丁居冲船經舊事出之孝之助
	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
一同危丁	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
但右同三斤強	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
右者古事記船頭共檣登支研糖御館內級	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
方之時欠斤多相立及迷惑莫由二斤船頭矣	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一
持下斤量哉少一仲度御假屋內方一箱	但右同百上指行三百三十六同相撲強弱十一

12 繼後編

差出

魏晉太傅陳亮奏表之
善后

衛門

某年某月某日可被申復至以上
二司官

一砂糖何接萬斤

右入庫三丁何十丁

左者重出米代銀上級返并計三丁左之

船頭入相渡差登有三英間津口通市平形

被仰付可被下矣以止

西六月奉行

請取

一砂糖正式拔三萬八千百三拾武片

西序三件銀同錢三百萬文換

但鑄屋式番方立直或

12 繼後屋特製

在一道被付差使可被得其意矣以上
西七月廿四日 潤華坂報雪上

西六月

砂糖奉行

覺人

一唐宋米正式十三百五拾五斗七斗之付八完絲

右南主面文兩面荷包直。三十支大三支小分荷

西序三件銀

但西序三件銀七千四百九十七拾九貫七百九拾四文

利錢六百武拾九貫式商七拾文

12 繼後屋特製

在一道被付差使可被得其意矣以上
西七月廿四日 潤華坂報雪上

西六月

砂糖奉行

官

一唐宋米正式十三百五拾五斗七斗之付八完絲

右南主面文兩面荷包直。三十支大三支小分荷

西序三件銀

但西序三件銀七千四百九十七拾九貫七百九拾四文

右脚當地重出米代銀森山完納ヨリ完
納付置差右返砂糖トニシ付二清取直
段之儀ハ代付之通脚引合可仕事於脚
國元完納方江此段相扁可申亥為後證
書物如伴

西六月

西序三件銀同錢三百萬文換

但鑄屋式番方立直或

砂糖座

今同於識名之脚殿興志堅梅司脚安

差

而男子猝被進脚誕生亥系此段奉手水

錢萬武拾大貫三百八拾七文

一唐宋米正式十三百五拾五斗七斗之付八完絲
右南主面文兩面荷包直。三十支大三支小分荷
利錢四百九十七拾九貫七百九拾四文

但西序三件銀七千四百九十七拾九貫七百九拾四文

右之內

西序三件銀同錢三百萬文換

但鑄屋式番方立直或

砂糖座

今同於識名之脚殿興志堅梅司脚安

差

而男子猝被進脚誕生亥系此段奉手水

錢萬武拾大貫三百八拾七文

但酉七月奉三相成

百斤二件四於武文
代文銀七拾四兩武文四十七毛九七五零

右之通庫出米方布送砂糖相清取利子

若引相主差出田禾割相退之儀之布座

候八脚步大可被仰付莫汗清錢三儀八

酉七月元之部利休矣庚未被仰付被

下度样二被仰上被下度此段申出亥次

上

酉七月

江共布印

村辰布印

砂糖墨印

一米粟鹿石起

鹽平稅方印

庚物奉川行
御書日從元印

代錢三百三於四百錢

15 船板屋特製

夏邑石起

代錢三百四拾壹貲六百文

先壹神二付三貲五共文

右從今日相均代老代請代被仰付可被下
亥以上

酉七月十一

一燒耐鹿頭

代錢武於三貲五而九於武文

右從今日相均代被仰付可被下莫江上

酉十月二

右之通被仰付莫汗清通達至以上

帳尚座

砂糖奉行

吉上單

15 船板屋特製

贊金百斤

內

砂糖奉行

吉上單

15 船板屋特製

東廿五日卯正七日迄兩乞席規武已三時三

午始安閒此段致問合至以上

15 船板屋特製

贊金百斤
五十五
七斤五
四寸

十月廿五

屬永親雲工

小破軍親雪上

御物奉行

一東廿三日廿四廿一日還虎城火鉢頭

前長藏火鉢頭人仕親方部頭三二千

三二人二千唐釋位於前二虎庚兩乞可

有虎壓矣事

一右同間得大君送殿炭火鉢頭前虎夕方

八有之消丁親方部三二千三七人二千

吉拜仕且亦於三年奉虎夕力一仕親

方部頭三二千一人二千兩乞之事

一右同於圓覺寺禪家二千為兩乞大盤

若虎祈念之事

12 鐵後屋御

三司官頭二千天尊堂北參兩乞三事

一右三日油羊祝部請賜切而乞可有三事

一些八晉八黃八卷赤八卷八朝衣計

一首里御頭油羊米朴請賜切而乞可有三事

只二

西十月廿二日

右之通言上相宿矣賜端賜切莫外首尾

保八毛被中渡諸事如例可被相勤矣以

上

十月廿二日

萬永親雪上

13 鐵後屋御

御物奉行

小破軍親雪上

一右三日油羊祝部請賜切而乞可有三事

一些八晉八黃八卷赤八卷八朝衣計

一首里御頭油羊米朴請賜切而乞可有三事

只二

西十月廿二日

右之通被仰渡矣間如例可被相勤矣事

十月廿二日伊歸破親雪上

小破軍親雪上

一右同於護國寺聖家二千兩乞虎祈念之

事

一右同於龍王窟天尊窟久米村人數大夫

頭二二千一七人二千三日物籠兩乞三

附塔建鼎散三時三司官一人申口一

人座數一人努頭一人里之子一人策

量之一人又一人罷下久米村那霸勤

人數一所三虎拜三事

一兩乞初日久米村那霸龍王致清單

那霸乞采林役人一人乞諸官親方部頭

二二千二平二差分一千八豎貝城一千八

御物奉行

一大火桶培式

內

武少難媚

虎近習

武少難媚

脚得大君處所

武少難媚

右同

圓覺寺

奥平耕方

天皇
龍王
窟

費

護國寺

右同
内
或以
附木毛束半
難シニモ毛束

難桶危務
佛供桶毛ツトタ共离差度危尺五寸

難桶危務

大夫方

同半切壹ツ高七寸差波危尺五寸

同半切壹ツ

附木半束
右兩元三付仕立錦久相波束
蓋西十月

同半切壹ツ
附木半束
右兩元三付仕立錦久相波束
蓋西十月

同半切壹ツ

同半切壹ツ

貲

12 船底屋物置

奥平耕方

天皇
龍王
窟

費

大夫方

同半切壹ツ
同半切壹ツ
同半切壹ツ
同半切壹ツ
同半切壹ツ
同半切壹ツ

譯帳
帳上

<p>候 样可被由 様首古指圖二千三 上</p> <p>附廿八日八 夫地頭一人請細二人八 一個工之内</p> <p>言其頭之者一兩人先可寵童美滿</p> <p>細二之土四 細勤至十八土之列三十於</p> <p>下庫理皮說儀可申上美此設合于被</p> <p>申役矣寵童次第各構之筆者高富</p> <p>區不疎麗童莫八右畫坐構之儀物奉</p> <p>行三十遂被露右儘二千直二下庫理高</p> <p>術席處取次可被備</p> <p>上覽矣</p>	<p>西十一月 砂糖事</p> <p>腰帶筆者東單固筆之紀慶上聚</p> <p>沙座砂糖糖比立用三雜九光七夕底</p> <p>信裏敷相成莫既光九ヨリ美知仕莫既</p> <p>此節名護間切ヨリ椎木ノリ販文案事</p> <p>莫ニ付細工人共ヨリシタムレ莫付</p> <p>テハ当座モ書函有之笔ト存莫得共</p> <p>相見得不申至極唐用支相成取納方差</p> <p>支申莫間唐貿處之上何不モ被仰付</p> <p>可被下莫以上</p>
--	--

<p>御物奉行</p> <p>左之道有之莫间各構之役人二十帳者</p> <p>座一列參拂祝儀申上莫样可被申役矣</p> <p>以上</p> <p>西十月廿八日 伊野被親雪上</p> <p>砂糖奉行</p> <p>此節唐船使依事共處修商二付板張帆</p> <p>牛方入用之諸品物皆作事奉行印底</p> <p>以可被相度矣左舞穀物之儀八帳当座</p> <p>威印以被相度莫间其心得下被殺矣</p> <p>以上</p>	<p>西十二月 役人</p> <p>左通申出有之候间何介ニモ被仰付被</p> <p>下役奉行莫以上</p> <p>江上覺</p> <p>讀石破筑多之紀慶上</p> <p>讀地村仲村筆之紀慶上</p> <p>加那官里</p> <p>右者當座之儀爭代下代三人共致交代尾</p> <p>人ノ新入二十每物東馳無之所糖取納</p> <p>方差支申莫然八为年之儀砂糖ノ、</p> <p>ノ夕底、夕累方般久差支莫付丁八当</p> <p>分追ノク取納並轉取納樽渡、諸雜物</p> <p>东側方紙而砂糖取納中ノ手式及不申</p>
--	---

<p>西十一月 砂糖事</p> <p>腰帶筆者東單固筆之紀慶上聚</p> <p>沙座砂糖糖比立用三雜九光七夕底</p> <p>信裏敷相成莫既光九ヨリ美知仕莫既</p> <p>此節名護間切ヨリ椎木ノリ販文案事</p> <p>莫ニ付細工人共ヨリシタムレ莫付</p> <p>テハ当座モ書函有之笔ト存莫得共</p> <p>相見得不申至極唐用支相成取納方差</p> <p>支申莫間唐貿處之上何不モ被仰付</p> <p>可被下莫以上</p>	<p>西十一月 砂糖事</p> <p>腰帶筆者東單固筆之紀慶上聚</p> <p>沙座砂糖糖比立用三雜九光七夕底</p> <p>信裏敷相成莫既光九ヨリ美知仕莫既</p> <p>此節名護間切ヨリ椎木ノリ販文案事</p> <p>莫ニ付細工人共ヨリシタムレ莫付</p> <p>テハ当座モ書函有之笔ト存莫得共</p> <p>相見得不申至極唐用支相成取納方差</p> <p>支申莫間唐貿處之上何不モ被仰付</p> <p>可被下莫以上</p>
--	--

尤取納物之儀二付于八百姓際取無之件

跡人日少陵々被仰渡趣无有之差處

右通不一方勤向就中近人眷指船大和

船云方三付于八兩方手分以掛渡

砂糖瓦納毛仕事三斤光以箱以差文

英儀八紫中之事赤座矣右加那官里事

此問日下代何歎差支矣筋足相勤

廿一謫事取馴居矣間比節役下代被仰

付彼下渡奉願矣此中之取仰高廿一定

式之人數二字相稱未且到今般砂糖焉

子毛齊少被仰付矣上八右式奉願矣儀

如何敷奉存矣得共前文通乎代下代三

右研糖瓦仰化出二字役下代被仰付可

被下矣以上

成正月覽

日本通鑑

成正月覽

日本通鑑

日本通鑑

- 10 -

西林比嘉氣至親慶上

右砂糖取納仕出二付役手代被仰付可

被下矣以上

研名波氣至親慶上

被下矣以上

瑞燈村無事中持頭氣至親慶上南縣

加那官里

右研糖瓦仰化出二字役下代被仰付可

被下矣以上

片物買置之儀

天下虎制禁之役八每月虎高九之趣一

紀奉兼知居矣存何楚復之儀八無之差

天可有三越頃日米直段餘及高直在

上難儀之牌二付于八鷹目見聞申付遣

背之者於罷出三八屹上可及涉伏矣此

有支配中可被申服者也

候得共差歲利得一迷買置相企矣有

格別之奏取合二以何卒願通被仰付被

不度左探虎座矣八、革革ヨリハ取馴

申差矣問假下代而取矣ニテ七御用爻無

之積之存尚申至問此等之趣ヲ以錢

重ニテ宜祥被仰上可被下儀奉願矣以

上申二月所管里施至親慶上

右立通被仰廣矣間可被得其意矣以上

成四月四日

御物奉行

右立通被仰廣矣間可被得其意矣以上

成四月四日

諸座端市城

金山丸松屋大福慶上

履通虎取持被下度奉存矣以上

申二月

津嘉山款慶上

一砂糖武若三萬五千四拾斤	九印毛 ^志 _定
左八重出来代銀上納返米料上二丁右	左入樽武千丁
二船頭 ^八 相渡差登申亥同津口通布手	
被仰付可被下至以上	
成五月	砂糖奉行 鹽名波氣量三般雪上
鹽 松久 ^一 鹿通 ^二 辛文武酒	
一序入加鹽鹿丁	松久 ^一 鹿通 ^二 辛文武酒
但方銅例鹿 ^八 猪百至持所	但方銅例鹿 ^八 猪百至持所
左同鹿丁	左同鹿丁
但左同強弱無之矣	但左同強弱無之矣
一印半 ^十 但右同四斤強	右同四斤強
右同鹿丁	右同鹿丁
但右同三斤強	但右同三斤強
一印半 ^十 但右同三斤強	但右同三斤強
右同鹿丁	右同鹿丁
但右同三斤五斤強	但右同三斤五斤強
一印半 ^十 但右同三斤五斤強	但右同三斤五斤強
右同鹿丁	右同鹿丁
但右同三斤五斤強	但右同三斤五斤強
成五月	砂糖奉行 鹽名波氣量三般雪上

仰付横 ^一 同福峰原五七衝 ^二 殿 ^三 附役	赤峰 ^一 勝助殿 ^二 吉書役折田 ^三 大殿帳高
座田場親所上同筆者佐立川筑童 ^一 他雲	上赤峰 ^一 筑童 ^二 他雲上疏藏役周 ^三 於筑童
立稅盤上出張鹿見分立上分銅有孝	
二二千掛 ^一 一委處鹽書之通有三委	
砂糖渡 ^一 有末通砂糖座 ^二 千掛	
惠法 ^一 被請取美样被仰送可被下美以	
上	
成五月	砂糖奉行 鹽名波氣量三般雪上
何月何日 砂糖奉行 何 ^一 幕	何月何日 砂糖奉行 何 ^一 幕
砂糖武若三萬五千四拾斤	砂糖武若三萬五千四拾斤
左入樽武千挂	左入樽武千挂
金山九加鹽大根 ^二 八	金山九加鹽大根 ^二 八
右八重出来代銀上納返米料上二丁右	右八重出来代銀上納返米料上二丁右
之船頭 ^八 相渡差登申亥同津口通布手	之船頭 ^八 相渡差登申亥同津口通布手
被仰付可被下至以上	被仰付可被下至以上
成五月	鹽名波氣量三般雪上

右之通相改之相達無處座矣次上

成五月

松堂親雲上

砂糖奉行
帳支座管者

奧平親方

左之通若相達處座矣八、其汁次可被

既矣以上

成五月廿六日

小蔬沈方

一升糖七粒

但百斤二付三百貫文

大八且郡方割合立內造如斯處座矣

諸所

佐渡山地方

以上

芥平勇三助

砂糖役人中

當座ノ用砂糖九リナタニ儀古七月以

砂糖賣無之样二十之無八徒跡久候
久候佛方被仰處置矣付千八耶緩之義

成五月廿六日

興那京波方

來船取入置矣處然久相仰不申二付

佐渡山地方

以上

成七月十七日

芥平勇三助

程及度久為數催促矣一其別歲之通不

納相主申矣然八月被諸間切研糠煙出

方之儀例年ヨリ年同二相底害候改薄

久差天趣有之至處在通納方相帶矣休

干八標信立方天不能或至干皆用之支

二相底可申亦甚以怠遷事存焉間多友

下細方外以單以相仰莫作稠密被仰底

八則久可申出矣於此上復三洞一毛

成十月二、

宜鄉座根雲上

多座砂糖標仕主用久久久之儀古七

月以束年秋入被仰處置矣處客方無之

矣故此問及數度為數催促矣候岸部今

成六月四、

尋源親屬上

八無之管夷得失此節大和瓶頭申夏人
者主之內砂糖處久買入夏因處在看
所被聞召通岐卜取居向可渡肯屋之子
物城江被仰處越有三基如你之儀矣
依之向久江嚴重貳佛方被仰處空間盡
夜十天折角第ノ付肆江其外子毋致着
三場町並手配ノ以走廻ノ被物見当矣
八、則久可申出矣於此上復三洞一毛

既、既卜其付大可被仰處莫乘耶無無
舊疎相勤夷杆廻ノ加勢中江可被申

度肯著圓二千莫以上

縱仁式ノ間切ハ斷外角相側餘間切ハ
 一痴人相假不申ニ休吉ニ日名不綱取
 又書取添書面ヲ以申ニ^{シテ}書送都下ノ間
 フニシテクレト仙取相仁廻不申放義如
 社旁板ニ付テハ太分之ノリ板仙取相
 仁廻次三歩津口々々江持出順風弓第
 橋渡東向ニ相成莫ハ至テ皮用文ニ
 相成可申哉甚只念邊事存焉然ハ今後
 之儀諸間切一俛事内事頃ヨリ研糖
 煙調美段乞通ニ成行ニ付キハナリ板
 客事次第生木逆結立力差板莫ハ
 細江火吹取般舟成便故星照其東板

財滿方桶タニシテ仕三用ナリナ夕ニ
 護毛革文周割半放入被物材置矣
 通是又一ノニ相假不申至テ差文
 由某洞破廉ハリ板楓ナ穫渡矣
 分ナリ被物付可被下及奉存矣
 成十日十四
 成物^{火吹}金額^{火吹}應親雲上
 一米栗壳石起
 代錢四百九枚八貲四百文
 光尾符二付四貲四百五枚文
 一燒耐危件
 代錢試驗危貨試百九文

第則火能調火也不申莫不叶儀三處
 座系火样而座莫ハ、生木調之薄^ノ
 研糖八付ニ住之等毛ニルミ相付万ノ
 ツクヲ位房ニ罷武百姓共送惑マテニ
 テモ每ニ弗物ニテ弗不蓋之方ニ前相
 成哉其上仕出ニ甚相^ノ渡方之砌段^ノ
 及難求為申儀尤多々有之差莫田
 而座莫問石旁之火第被開召少^ノ着行
 取被羣行ニ^ノ相數披御渡仙取又種越
 カノ寧曉ト下加方ノ以高月中限若同
 丽但矣^ノ被佈皆被下及草存莫別武之
 不納取火書取添此後申口意以上

諸聖浦史藏後久天下後患扶持人出銀	
取大方二付成用莫開門林何人之與內	
又「御某名子猶等之差分委相紀酒付	
彼自付廣狹皆高相紀事皆日限出銀	
謂部方一被言出莫群方被半減量上	
成十一月十号	
研種座	
覺	
萬地	
革良仁夏	
右研種取假光忙出二付假年付被仰付	
可被下差以止	
成吉日湖日	
研種革座就慶上	
鷺湖那官里	
右研種萬群忙出二付差座假下成	
被仰付可被下差以止	
成十二月朔日	
研種革座就慶上	
覺	
一硯磨亮方三千方百八拾老丁	
一坛入穀百八拾老丁	

右者進貢貨物	昨日近燒社烟最
軍政級布帳各經莫	運費半收船不
積入內外大倉收者	庫一捆每束
可一捆每束收者	運費半收船不
加保護方差父中莫開紅大世座五開	
減免其外收減	公之尚足令力不滿
被仰付廣西之儀八同所役人二下勤務	
仕莫群是又被仰付被下度事得備	
夏圖季以止	
成八月七日	
大吉破歲就慶上	
大通津出布之莫間研種一捆瘦仁	
大山就慶上	
右之通津正莫間研種行之清番之儀	
於役人相勸莫接可被皮膚莫之上	
八月	
大山就慶上	
伊害堂就慶上	

右者進貢貨物	昨日近燒社烟最
軍政級布帳各經莫	運費半收船不
積入內外大倉收者	庫一捆每束
可一捆每束收者	運費半收船不
加保護方差父中莫開紅大世座五開	
減免其外收減	公之尚足令力不滿
被仰付廣西之儀八同所役人二下勤務	
仕莫群是又被仰付被下度事得備	
夏圖季以止	
成八月七日	
大吉破歲就慶上	
大通津出布之莫間研種一捆瘦仁	
大山就慶上	
右之通津正莫間研種行之清番之儀	
於役人相勸莫接可被皮膚莫之上	
八月	
大山就慶上	
伊害堂就慶上	

右者進貢貨物	昨日近燒社烟最
軍政級布帳各經莫	運費半收船不
積入內外大倉收者	庫一捆每束
可一捆每束收者	運費半收船不
加保護方差父中莫開紅大世座五開	
減免其外收減	公之尚足令力不滿
被仰付廣西之儀八同所役人二下勤務	
仕莫群是又被仰付被下度事得備	
夏圖季以止	
成八月七日	
大吉破歲就慶上	
大通津出布之莫間研種一捆瘦仁	
大山就慶上	
右之通津正莫間研種行之清番之儀	
於役人相勸莫接可被皮膚莫之上	
八月	
大山就慶上	
伊害堂就慶上	

一黄人卷三

内考人被松年大屋子店人所用物產大屋子考人

松楠屋大屋子

一屋之十室坐二十制

内考人被松年藏室考人所用意用藏室有

但酒舖考人

右元日社參先着後着酒藥有之矣同其

支度二千同日兼明此方司合可被致美

以上

成十二月廿五

贊

正月朔日廿五日在參席人數三儀各差

出美面付書二致星合相勸兼美处間二

八引合近二千勤方不致者毛有之矣間

請座諸席藏役人并田舍諸納工人八名

積之役人四取十二紙書以社參之

勤相請至殿首尾可被申出美志諸奉行

諸役人八考人所用頭方引合可被致美

若粗欠考方八表洁方江披露申太更間

、此段觸上申更以上

下席理

一請問切請萬口里請座諸藏江諸物

納方之砌道分卜申式八式三被貴文

武式五大被貴文押之視申械通公不

相拂内八色从江能口拂通該方差

局美故假人共迷惑十九日役場之勤

恐無是非申戒假相拂夕通介夕

默上假物所江直捨罷歸莫有毛有之

、哉聞一之趣有之不都合之至美百姓

、不痛称卜之儀八歸夕日假夕被仰

、度置是逃其破憂舞之仲之次第甚如

、何之儀二乘以乘在解之仕形八勿薄

、加勢筆者二七嚴重可及處步狀要參

、矣余右之過得不級更萬事三道二勤

、務可被致美此旨皆差圖二千至以上

成十二月廿九

釋岐報曆上

奧年親方

請座虛藏

請座虛藏

請所御普請法修兩其外萬味道具虛仕

替虛禮南等之儀兼千差見得美毛節夕

卜相心得日限押結申出美故不行屈其

上右入具之内間卯入夕八請方ヨリ乞

平假千以席忙口取信美仕向二千夫

長日數半込尤急二相既美偷八夜仕

事等之傳千以相調美故設夕差支美上

入具之儀品不着合節二高他千以買入

布用向井連夕之景振合二千涉物入

相贈尚時等獨別千以保之儀二美系向

後刺久立向北引改兼于差見得美

告用向都于三月前申出勿論急成

第其張合可有出於上十力

後者之廣失於有之八向可及傳

本之希耶無後深相動於代之確無得

失可被次渡矣此首構之向一堅可被

申渡旨未差圖二至以上

亥正月十九、

扁永親雪上

宋星親雪上

林霸親雪上

真玉橋親雪上

一
同
十
九
日
五
艘
在
同

精士自物 = 相載美半形銀去津軍

某五年述六軍決免被仰付置美處同

物研燒段久不偏之開得有之美付當年

三月法之軍形銀上仰被仰付云段被

仰渡美付開後在番親方

三月段之奉顧

趣有之弱之通相連最

三年限帶免被

仰付美在次勞二付于此前猶又被仰渡

趣自物研燒萬一不求之儀王有之美

八研燒度引揚之上此可及佛

候爭於唐國元旅役之節改方嚴重有之

候被仰渡左瑞二取歸向之儀同

物研燒之分別段 = 故同印積出三節

為當地涪役以瓦登之物 = 不係樣隨分

歸方可申繼首被仰渡美段此等琉璃鑑

三月申來美間加之趣被得其意當復盡

印外二種又體成殺日仰拂通手形相

附積入三節落諸役以瓦并唐國船頭矣

物等二少毛無份報向之歸方嚴重可

被申渡旨未差圖二至以上

物物奉行

右之通狀第三月取歸向堅被仰渡別格

一月廿四日大和船臺般移行萬斤內

端爭取船同美事

形可伸出旨向之一申度置美間此段可
被申度至以上

亥四月廿七日

西半親雪上

研轂牽行

古采船乞頭共接下美并量哉少一候

前日書座斤量席試上二斤帳當座筆者

浦味筑臺之親帶上真榮因筑臺之親雲

上席下二斤虔試相曉事

覽

一斤量壹丁相主指宿諸三擇處大至次件極多卷之

但分綱例壹席面互於斤械二斤壹斤強

一斤量壹丁右用渡見三斤助研頭同此之

那霸筑臺之親雲上席出張見合之上分

銅分年二斤抵比美處牒書之通布之

美研轂後方八有束通研轂座斤量二斤

抵渡部持之斤量少私切封二斤拉三幅

頭共一相渡差壹席申美向此段被佈紙不

左用別折之精多助研頭同此之

善之助研頭同此之

右用万季策高助研頭同此之

助研頭同此之

右用山川之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右用刀之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右用刀之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右用刀之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右著古采船乞頭共積全美研轂於館以

假方三財欠斤多相言及迷惑莫因二斤

船頭共接下美斤量抵少一仕度拂假

屋方四相付額出之無有之於古屋乳方

被竹付帶機同示良彦而殿拂附後未傍

源助殿拂書後折田甚六股帳高壓筆

者補旁疏登之親雲上真榮因筑臺之總雲

上疏瓶後尚東氣登三秋雲上唐書後五

那霸筑臺之親雲上席出張見合之上分

銅分年二斤抵比美處牒書之通布之

美研轂後方八有束通研轂座斤量二斤

抵渡部持之斤量少私切封二斤拉三幅

頭共一相渡差壹席申美向此段被佈紙不

左用別折之精多助研頭同此之

善之助研頭同此之

右用万季策高助研頭同此之

助研頭同此之

右用山川之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右用刀之精多助研頭同此之

助研頭同此之

右著古采船乞頭共積全美研轂於館以

亥 三月

礼 改 所

通

右之通被佈付某向此段致通達美次上

亥 五月十八日

礼 改 所

諸 座 諸 座 藏

貲

大 善 座 依 平 代 平 其 仁 屋 痘 氣 處 断 二 付

代 被 仰 付 可 被 下 美 以 上

亥 五月廿一日

馬 聚 蒼 堂 土 滅 雪 上

諸 取 写

奉 文 三 通 完 否 事

一 破 正 式 於 三 萬 千 百 八 千 斤

右 入 傳 式 千 桶

右 善 座 多 他 重 出 素 方 蔡 山 告 程 仁 送 并

諸 座 藏

用 卜 二 千 晴 二 相 请 取 申 美 於 大 和 無 利

違 相 順 可 申 美 仍 行 为 後 日 妥 件

亥 三月

金 大 順 附 友 为 兵 事

所 糜 座

差 出

固 通 大 順 附 大 衡 門

所 糜 付 拾 三 萬 千 百 八 千 斤

右 重 出 素 方 銀 上 仍 互 不 料 卜 二 千 右 付

頭 一 桐 廣 善 置 申 美 間 事 付 手 付 被

付 付 被 下 美 以 上

亥 五月

奉 宜 駒 座 藏

太 子 樂 賦 田 使 夷 七 被 遊 交 付 墓 力 夕 龍 五

日 所 同 事

一家 聞 二 付 丁 青 高 傷 路 ヨリ 日 故 三

日 可 相 止 事

一 普 请 作 事 昨 日 ヨリ 日 故 五 日 右 用 故

一 殉 生 昨 日 ヨリ 日 故 十 事 右 用 故

一 鳴 物 昨 日 ヨリ 日 故 五 十 日 右 用 故

右 之 通 諸 關 切 諸 島 一 不 調 可 被 由 墓

旨 善 差 圖 二 千 美 以 上

附 諸 余 仁 此 書 付 相 連 美 日 ヨリ 事

文 之 通 可 相 墓 事

亥 五月廿五日 墓 王 橋

市 物 奉 行

諸 座 滅 吉 藏

西 年 親 雪 上

官 年 親 方

右 之 通 被 仰 渡 美 間 可 被 得 其 意 美 以

五 月 廿 五 日

太 子 柳 昨 日 付 大 亡 被 遊 交 付 墓 力 夕 龍 三

一 諸 士 昨 日 ヨリ 日 故 三 日 箴 故 白 衣 藏

着 三 事

一大 美 家 賦 交 付 墓 事

殿 灰 外 城 開 城 一 年 代 下 代 用 故 拾 三

日 所 同 事

一 諸間切諸事廿八九月元关町方住

元諸座諸虎藏年代下大平年所疏近

事日數十言右同齡

右通諸間切諸事不被可被申渡

旨店差因二十三日以上

附諸事一八此書付相達至日ヨリ來

文通可相傳事

亥五月二十三日

真王橘親雪上

度物奉行

度帳面其旨尾方可被申渡美以止

賞

度帳面其旨尾方可被申渡美以止

一同大半切臺ツ衣同

度帳面其旨尾方可被申渡美以止

諸士渡分
立者七斤三勺四才
百斤一升七分
代文銀四於三好三合文 壇七四忽
錢三三式百人貢百三於三文
一渡唐人教養依之儀事十八日ヨリ於其
座例之通為教養作美同其心得可被或
美此段致同合美以止
亥七月十六
高野渡若裏筑臺教雪上
仲秋筑臺立教雪上

砂糖座

高大月廿六日

大御前様被遣

御逝去美改皮列末御座美同橘士明日

中煩可申渡事

一善清三議明日申相止美樣可申渡事

一被生共鳴物造與ノ間敷儀明日ヨリ

曰數拾日右同齡可申渡事

右之通被仰渡美間諸座諸事下地中請
間切不被可被申渡旨店差因二十三日以上

亥十月十六日 真王橘親雪上

御物奉行

金百斤
内
四於并九合四勺文才

成元

迦渡武尺高七寸

右市行水常用美間只今結調多座二可

被差羣美以止

亥五月廿四日

織布座

被差羣美以止

恒福多座間今表始調廿七日近習使

取次ヲ以差上申表事

織入

迦渡武尺高七寸

右市行水常用美間只今結調多座二可

被差羣美以止

金百斤

成元

砂糖座

高大月廿六日

大御前様被遣

御逝去美改皮列末御座美同橘士明日

中煩可申渡事

一善清三議明日申相止美樣可申渡事

一被生共鳴物造與ノ間敷儀明日ヨリ

曰數拾日右同齡可申渡事

右之通被仰渡美間諸座諸事下地中請
間切不被可被申渡旨店差因二十三日以上

亥十月十六日 真王橘親雪上

御物奉行

金百斤
内
四於并九合四勺文才

成元

右三通被作渡美間河被其意美口上

十月十日

富川觀票上

覧

一米粟壹石起

代錢三百三十五貫四百文

先臺碑付貢八百五十五文

一棟耐壹升

代錢按四貢六若文

亥十月廿六日

一標壹丁

代錢七百五局於武文

八標一標

一百九十六文

代錢八百三十五文

一百五十六文

代錢八百文百六十五文

右當年標代如斯

度量度以上

亥十月廿八日

覧

唐至產第者共價銀壹千兩雪上兩次差事

改入坡作付置天處事方相帶此程改々

印減催促長量催促等差通委得失何楚

細不申辦別武外書之分八湘納本行

之員數不考畧方無之至極差事中貴然

八為第三儀砂塘步方當月ヨリ相始

候段差用度外通相約不申ニ付于ハ

才ノハ力ヲ標核仕外無之然時ハ百姓

迷惑相保ノ所概住格別相考虎不益調

成充支客一斤ニ差出ナリノハ某東美

于干標信調方差窮其上生木ニ干結主

矣于ハ引取研磨住裏敷相成大和人渡

方ニ砌及難破為申儀多々有之由御座

候間ナリ板ニ属当月廿日限皆同相納

美振國頭方八ヶ間切ハ調數被作渡

東兩宿ヨリ取納座役人被召之急度相

仰承標被作付被下度奉存另別代取還

此段申上美以上

附審方三儀ヲタ底板序ニ干相納美

標呈又被仰付可被下美

亥十月二日

覧 唐至產者共價銀壹千兩雪上兩次差事

砂標標核立用之ナリ板取調方ニ付ナハ

諸木之費無之入金致取存差得仰渡

之趣ニ可有店度之處當年八都ニ藤拂

拂見得就中ナリ板平薄相既又ナリ寸尺

達日則榜械惟木之類事交寄未常用也

多出集取替仕廿七美傳八大粒之人足

矣端木之費相或田岸領人申与之趣有

之 駕 之 仕 向 三 分 壇 引 令 以 取

納

仕 美 政

極 教

計 管 合

美 得

一 可 相

者 上

致 心 得 遺 用 之 支

勿 諦

間 切 一 勝

迷

惑 相 挑 廉 以 如 何 之 至 存

當 申 美 系 向 後

入 乞 向 切 二 千 六 構 之 十 八 四 九 見 分 之

上 隨 分 季 取 梅 位 惠 數 等 八 寒 方 每 之 千

國 額 方 九 千 間 却 一 被 仰 付 可 被 下 美 以 上

亥 十 一 月 廿 四 日

小 嶺 氣 登 之 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

覽

平 限 入 退 美 研 獨 雜 九 月 廿 四 底

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

武 岩 親 雪 上

間 急 夏 被 仰 越 過 幸 在 事 及 上

亥 十 一 月 廿 四 日

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

見 機 間 切

亥 十 二 月 廿 一

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

賞 印

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

研 獨 雜 九 月 上

亥 十 月 廿 四 日

右 甲 未 之 通 用 支 相 取 美 陵 是 五 申 美

武岳範望之私夢上

左中之通設行被下度奉存美以二

亥二月

柏花親雪上

諸座諸虔誠虔遺羽刑市法賦高二月

高差圖三月以上

武岳範望上

歲不足美旨吉辰至諸方殿所又二道其

子二月

奧平親方

修再作督等之取締令于改々被御渡

一春柏孤桂存之傳二月廿二日立夢初之事

其遲不守二天樣相見得美處連々後生威

務多勿帶勤摘次第此都成輩以一月見

事如何三儀二美成所帶出難清二付二

合可被御付三美余此段毛取深可申復吉

八甚成卒意十方大法事十六日佛光格

古年於拔國元搭松馬體船火主三者共

相東美成武事十七日佑異被作付法國許

帝國人一政宣寧孔被御渡期有之美

江奉城美成禮武事二啟今法願主之上

然八古國元之豈二對應若禪儀二有之

季心識美一兔角虎心配之程行廟美

儀无可有之美處單意責其心執導半所

三引每度內歸被御度美于其治無之却

丁追年皆達費少腳數相以此躬二月八

何今被恩召美于不走難游可立直杆無

之積二相見得到于虎氣之毒之毒事假

之此節猶又改于被御渡事美杀晴向一
晚南趣意之程厚波度就中顯從之而从

取次氣ヲ附車去辰年被御渡置
モ重傷而嚴便相而秀桺始々可被致勤

基